

# 患者の皆様へ

2020年6月15日

呼吸器外科

現在、呼吸器外科では、「肺気腫や間質性肺炎を基礎疾患とした続発性自然気胸手術症例についての後方視的検討」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では続発性自然気胸に対して当院で手術をお受けになった患者さんの診療情報などを利用して頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

## 1. 研究課題名

「肺気腫や間質性肺炎を基礎疾患とする続発性自然気胸手術症例についての後方視的検討」

## 2. 研究の意義・目的

「続発性自然気胸」とは、肺気腫や間質性肺炎など、もともと肺に基礎疾患を有している方に生じる自然気胸のことを言います。超高齢化社会を背景に、肺気腫や間質性肺炎を基礎疾患とした続発性自然気胸症例が増加しております。続発性自然気胸に関しては、臨床的特徴や外科治療成績などが十分には明らかにされていないのが現状です。本研究では当院において続発性自然気胸に対して手術を行った方々のデータを、同時期の原発性自然気胸で手術を受けられた方々のデータと比較することで、肺気腫や間質性肺炎を基礎疾患とした続発性自然気胸の臨床的特徴を明らかにし、今後の治療に役立てることを目的としています。」

## 3. 研究の方法

2006年1月から2016年10月の間に当院呼吸器外科で自然気胸に対する手術をお受けになった方につき、過去のカルテをもとに臨床データ(患者背景、疾患の状況、治療・転帰等)を調べさせていただき、肺気腫や間質性肺炎を基礎疾患とした続発性自然気胸と原発性自然気胸の臨床的な違いについて検討します。

## 4. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、匿名化し、外部に洩れることのないように厳重に管理します。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。データ等は、千葉大学大学院医学研究院呼吸器病態外科学教室の鍵のかかる棚で保管します。

**5. 研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について**

ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省・厚生労働省による「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて揭示を行っています。

**研究実施機関** : 千葉大学医学部附属病院呼吸器外科  
**本件のお問合せ先** : 大学院医学研究院 呼吸器病態外科学  
医師 田中 教久  
043（222）7171 内線 5464